

授業科目	卒業研究		担当教員	谷原 孝典	
対象年次・学期	3年・通期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	68回	時間数 136時間
授業目的	臨床実習で実際の臨床現場を体験することで、新規性のある研究テーマを探求し、調査、研究した成果を報告する。				
到達目標	研究の流れを経験することで、現状の問題を発見し解決する能力、さらにはそれらの情報を発信するプレゼン能力を習得し、報告会にて発表することができる。				
テキスト・参考図書等	研究テーマごとに別途指示あり				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物、研究・調査に取り組む態度および発表内容を総合して評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
その他	50				
履修上の留意事項	研究テーマを探求、テーマに合わせて調査研究、実証実験、研究開発の実施。スライドまたはポスターにて発表。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	卒業研究(1)	ガイダンス		
	2	卒業研究(2)	研究テーマ決定準備		
	3	卒業研究(3)	研究テーマ決定準備		
	4	卒業研究(4)	研究テーマ決定準備		
	5	卒業研究(5)	研究テーマ決定準備		
	6	卒業研究(6)	研究テーマ決定準備		
	7	卒業研究(7)	研究テーマ決定準備		
	8	卒業研究(8)	研究テーマ決定準備		
	9	卒業研究(9)	研究目的の策定		
	10	卒業研究(10)	研究目的の策定		
	11	卒業研究(11)	研究方法の検討		
	12	卒業研究(12)	研究方法の検討		
	13	卒業研究(13)	研究方法の検討		
	14	卒業研究(14)	研究方法の検討		
	15	卒業研究(15)	研究方法の検討		
	16	卒業研究(16)	研究方法の検討		
	17	卒業研究(17)	研究方法の検討		
	18	卒業研究(18)	研究方法の検討		
	19	卒業研究(19)	調査・実験		
	20	卒業研究(20)	調査・実験		
	21	卒業研究(21)	調査・実験		
	22	卒業研究(22)	調査・実験		
23	卒業研究(23)	調査・実験			

24	卒業研究（24）	調査・実験
25	卒業研究（25）	調査・実験
26	卒業研究（26）	調査・実験
27	卒業研究（27）	調査・実験
28	卒業研究（28）	調査・実験
29	卒業研究（29）	調査・実験
30	卒業研究（30）	調査・実験
31	卒業研究（31）	調査・実験
32	卒業研究（32）	調査・実験
33	卒業研究（33）	調査・実験
34	卒業研究（34）	調査・実験
35	卒業研究（35）	調査・実験
36	卒業研究（36）	抄録作成
37	卒業研究（37）	抄録作成
38	卒業研究（38）	抄録作成
39	卒業研究（39）	抄録作成
40	卒業研究（40）	抄録作成
41	卒業研究（41）	抄録作成
42	卒業研究（42）	抄録作成
43	卒業研究（43）	抄録作成
44	卒業研究（44）	抄録作成
45	卒業研究（45）	抄録作成
46	卒業研究（46）	抄録作成
47	卒業研究（47）	PPT・ポスター作成
48	卒業研究（48）	PPT・ポスター作成
49	卒業研究（49）	PPT・ポスター作成
50	卒業研究（50）	PPT・ポスター作成
51	卒業研究（51）	PPT・ポスター作成
52	卒業研究（52）	PPT・ポスター作成
53	卒業研究（53）	PPT・ポスター作成
54	卒業研究（54）	PPT・ポスター作成
55	卒業研究（55）	PPT・ポスター作成
56	卒業研究（56）	PPT・ポスター作成
57	卒業研究（57）	発表練習
58	卒業研究（58）	発表練習
59	卒業研究（59）	発表練習
60	卒業研究（60）	発表練習
61	卒業研究（61）	発表練習
62	卒業研究（62）	発表練習
63	卒業研究（63）	発表練習
64	卒業研究（64）	発表練習
65	卒業研究（65）	発表

	66	卒業研究 ( 66 )	発表
	67	卒業研究 ( 67 )	発表
	68	卒業研究 ( 68 )	発表



授業科目	臨床医学総論	担当教員	津田 里佳子		
対象年次・学期	3年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	臨床工学技士に必要な臨床医学分野の知識を学ぶ。				
到達目標	臨床業務に必要な医学知識の習得と関連分野の国家試験問題が解ける。				
テキスト・参考図書等	配布プリント 臨床工学講座 「生体機能代行装置学 血液浄化療法装置」 第2版 (医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験により評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	スライドを用いた講義形式。 遅刻はしないこと。 授業中の私語、携帯、居眠り厳禁。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	腎疾患(1)	HD患者の栄養指導(P、K、塩分、水分、エネルギー等)		
	2	腎疾患(2)	貧血について(管理目標値、ESA、HIF-PH阻害剤等)		
	3	腎疾患(3)	貧血について(ERI、鉄代謝、鉄関連パラメータ等)		
	4	腎疾患(4)	HD患者特有のデータについて(n-PCR、KT/V等)		
	5	腎疾患(5)	患者監視装置について(構成、トラブル等)		
	6	腎疾患(6)	HD中の患者管理について(BP低下、下肢つり、抜針事故等)		
	7	腎疾患(7)	HD患者によく使用する薬剤について(昇圧剤、降圧剤、P、K吸着剤、ESA等)		
	8	腎疾患(8)	タンパク結合毒素(原因物質、機序、対策)、フレイル(機序、対策、指導)について		
	9	腎疾患(9)	パラメータや薬剤		
	10	腎疾患(10)	振り返り、ディスカッション準備と復習		
	11	腎疾患(11)	ディスカッション(班に分かれて実践的なパラメータを読み判断する)		
	12	腎疾患(12)	ディスカッション(各班代表者が発表する)		
	13	血液疾患(1)	血液の働き(1)		
	14	血液疾患(2)	血液の働き(2)		
	15	血液疾患(3)	血液疾患の病態生理(1)		
	16	血液疾患(4)	血液疾患の病態生理(2)		
	17	脳血管疾患(1)	脳血管疾患の病態生理と治療方法(1)		
	18	脳血管疾患(2)	脳血管疾患の病態生理と治療方法(2)		
	19	脳血管疾患(3)	脳血管疾患の病態生理と治療方法(3)		
	20	脳血管疾患(4)	脳血管疾患の病態生理と治療方法(4)		
	21	脳血管疾患(5)	脳血管疾患の病態生理と治療方法(5)		
22	脳血管疾患(6)	脳血管疾患の病態生理と治療方法(6)			

	23	循環器疾患（１）	循環器の基礎と病態生理（１）
	24	循環器疾患（２）	循環器の基礎と病態生理（２）
	25	呼吸器疾患（１）	呼吸器の基礎と病態生理（１）
	26	呼吸器疾患（２）	呼吸器の基礎と病態生理（２）
	27	代謝疾患（１）	代謝内分泌の基礎と病態生理（１）
	28	代謝疾患（２）	代謝内分泌の基礎と病態生理（２）
	29	消化器疾患（１）	消化器の基礎と病態生理（１）
	30	消化器疾患（２）	消化器の基礎と病態生理（２）



授業科目	臨床薬理学	担当教員	本吉 竜浩		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	薬物の作用機序や様々な場面において必要な薬物について学ぶ。				
到達目標	臨床で使用される薬物の作用機序、適応などを説明することができる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学技士標準テキスト 第4版 (金原出版株式会社)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験により評価する		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	薬理学総論	薬物治療の目ざすもの、薬効に影響する因子、薬の管理と新薬誕生		
	2	抗感染症薬	感染症治療に関する基礎事項、抗菌薬各論、特殊な感染症の治療薬		
	3	抗がん薬・免疫治療薬	抗がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論、免疫反応の仕組み		
	4	脳神経薬	自律神経作用薬、中枢神経系の働き、全身麻酔薬、抗精神薬		
	5	呼吸器・消化器・泌尿器系に作用する薬物	呼吸器系作用薬、血液・造血系作用薬、利尿薬		
	6	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬、狭心症治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬		
	7	物質代謝に作用する薬物	ホルモンおよびホルモン拮抗薬、治療薬としてのビタミン		
	8	生体機能代行装置操作に必要な薬物	血液浄化、人工心臓、補助循環などに関する薬		



授業科目	関係法規	担当教員	西田 昌弘		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	医療関係者の資格や業務内容の多くは法律で規定されていることを理解し、患者の安全を確保し良い医療の提供と自分自身を守る。				
到達目標	臨床工学技士業務を行う上で必要な関連法規に関する知識を幅広く習得する。法律がつけられる意図や社会的背景を知る。				
テキスト・参考図書等	臨床工学技士標準テキスト（第4版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験により評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	CEに必要な法規(1)	法の意義、体系		
	2	CEに必要な法規(2)	臨床工学技士法(1)		
	3	CEに必要な法規(3)	臨床工学技士法(2)		
	4	CEに必要な法規(4)	臨床工学技士業務指針(1)		
	5	CEに必要な法規(5)	臨床工学技士業務指針(2)		
	6	CEに必要な法規(6)	医療法(1)		
	7	CEに必要な法規(7)	医療法(2)		
8	CEに必要な法規(8)	その他の関係法規			



授業科目	関係法規	担当教員	本吉 竜浩		
対象年次・学期	3年・通期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	職域を広げられるようになるため、医療法や臨床工学技士法など法律に関する理解を深める。安全な医療を提供するために必要な法的背景についての理解を深める。社会人として、また医療人として遭遇するであろう事象に対する法的見解や考えを学ぶ。				
到達目標	関連法規に対する理解を深める。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験				
	レポート				
	小テスト				
	提出物	100			
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		



授業科目	理工学演習	担当教員	小山 有基		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	臨床工学技士に必要な理工学分野を総復習し、機器の原理や基礎工学分野の知識を習熟する。				
到達目標	機器の原理や基礎工学分野を学び、他者に説明できる知識を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	"プリントを配布、国家試験解説集 臨床工学講座「医用電気工学1」第2版、臨床工学講座「医用電気工学2」第2版、臨床工学講座「医用電子工学」第2版(医歯薬出版) 臨床工学講座「医用機械工学」、臨床工学講座「医用情報処理工学」第2版、臨床工学講座「医用システム・制御工学」(医歯薬出版)"				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験により評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項	テキストおよびプリントを用いた講義。遅刻はしないこと。授業中の私語、携帯、居眠り厳禁。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	基礎工学(1)	機械工学(1)		
	2	基礎工学(2)	機械工学(2)		
	3	基礎工学(3)	機械工学(3)		
	4	基礎工学(4)	電気工学(1)		
	5	基礎工学(5)	電気工学(2)		
	6	基礎工学(6)	電気工学(3)		
	7	基礎工学(7)	電子工学(1)		
	8	基礎工学(8)	電子工学(2)		
	9	基礎工学(9)	電子工学(3)		
	10	基礎工学(10)	システム情報(1)		
	11	基礎工学(11)	システム情報(2)		
	12	基礎工学(12)	物性工学(1)		
	13	基礎工学(13)	材料工学(1)		
	14	基礎工学(14)	総合演習(1)		
15	基礎工学(15)	総合演習(2)			



授業科目	医用統計学	担当教員	西村 智嘉男		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	(1) データ分析をするために必要な用語と知識を修得する。 (2) 数字を用いて、第三者に説明ができる能力を身に付ける。				
到達目標	統計は医学研究において重要なツールであり知識ではあるが、日常生活でも使える便利な知識であることがわかる。				
テキスト・参考図書等	プリントとパワーポイントのスライドを使用。 テキスト・参考図書はなし。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	評価内容		レポートと小テストの合計を100点満点に換算して評価		
	評価内容				
	評価割合	レポート60% 小テスト40%			
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	平均、分布、ヒストグラム、正規分布	大量のデータをどのように要約するか 平均には気をつけるべきことがある		
	2	分散、標準偏差	データのばらつきを数字にする1		
	3	分散、標準偏差	データのばらつきを数字にする2		
	4	正規分布と標準偏差の関係1	標準偏差で割合(確率)がわかる		
	5	正規分布と標準偏差の関係2	Z値と標準正規分布、Z値がわかると偏差値の意味がわかる		
	6	推測統計学の基本1	一部のデータで全体を推定、母集団、標本、無作為抽出95%信頼区間		
	7	推測統計学の基本2	仮説検定のクセのある考え方 帰無仮説 対立仮説 有意水準		
	8	代表値、四分位数、箱ひげ図	代表値、四分位数、箱ひげ図		



授業科目	放射線工学		担当教員	北 裕一	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	8回	時間数 16時間
授業目的	医用放射線と画像検査について学習する。				
到達目標	医療人として必要な放射線の基礎と画像検査に関する知識を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	臨床工学技士標準テキスト（第4版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験により評価する		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	放射線と放射線防護	"放射線の基礎知識(種類・性質・単位・半減期など) 放射線の人体への影響、放射線防護の基礎知識"		
	2	病気を見つける(1)	一般撮影・CT(装置・撮像原理・画像解剖) 一般撮影・CTの画像診断		
	3	病気を見つける(2)	MRI(原理・装置・撮像原理・画像解剖) MRIの画像診断		
	4	病気を見つける(3)	核医学検査(放射線医薬品・装置・撮像原理・画像処理) 核医学検査の画像診断		
	5	病気を見つける(4)	超音波検査(超音波物理現象・装置・撮像原理・画像解剖) 超音波検査の画像診断		
	6	病気を治す(1)	放射線照射器具(密封線源・高エネルギーX線など) 放射線治療概論		
	7	病気を治す(2)	血管造影(装置・撮像原理・画像解剖) インターベンショナル・ラジオロジー概論		
8	病気を治す(3)	透析医療に活用する超音波検査(VAモニタリング・エコーガイド下PTA)			



授業科目	臨床支援技術学実習 A	担当教員	谷原 孝典		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	病態の背景を考え適切な機器の操作ができる。				
到達目標	内視鏡における機器の取り扱いについて学ぶ。心臓カテーテル検査の手技を学ぶ。ブラッドアクセスについて学び動脈表在化の穿刺技術を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	カテーテルスタッフのための PCI 必須知識 (メジカルビュー社) 人体の構造と機能 第5版 (医歯薬出版) プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	50%	記述試験及び技術試験により評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他	50%				
履修上の留意事項	各臓器を立体的にとらえることを心掛ける				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	内視鏡 (1)	解剖学、生理学 カメラから見る臓器 (1)		
	2	内視鏡 (2)	解剖学、生理学 カメラから見る臓器 (2)		
	3	内視鏡 (3)	機器の構造 (1)		
	4	内視鏡 (4)	機器の構造 (2)		
	5	内視鏡 (5)	機器の取り扱い (1)		
	6	内視鏡 (6)	機器の取り扱い (2)		
	7	内視鏡 (7)	機器の取り扱い (3)		
	8	内視鏡 (8)	機器の取り扱い (4)		
	9	内視鏡 (9)	機器の取り扱い (5)		
	10	内視鏡 (10)	機器の取り扱い (6)		
	11	心臓カテーテル (1)	解剖学、生理学 立体的に冠動脈をとらえ CAG を読める		
	12	心臓カテーテル (2)	治療デバイス アブレーション治療による電気刺激 汎用される薬剤		
	13	心臓カテーテル (3)	輸液ポンプを用いた薬剤投与と静脈路確保と抜針		
	14	血液透析	シャントの管理、穿刺 自己血管、人工血管、動脈表在化		
15	血液透析	外シャントの取り扱い W ルーメンカテーテル、カフ付きカテーテル			



授業科目	臨床支援技術学実習 B	担当教員			
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	病態の背景を考え適切な機器の操作ができる。				
到達目標	内視鏡における機器の取り扱いについて学ぶ。心臓カテーテル検査の手技を学ぶ。ブラッドアクセスについて学び動脈表在化の穿刺技術を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	カテーテルスタッフのための PCI 必須知識 (メジカルビュー社) 人体の構造と機能 第5版 (医歯薬出版) プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	50%	記述試験及び技術試験により評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他	50%				
履修上の留意事項	各臓器を立体的にとらえることを心掛ける				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	内視鏡 (1)	解剖学、生理学 カメラから見る臓器 (1)		
	2	内視鏡 (2)	解剖学、生理学 カメラから見る臓器 (2)		
	3	内視鏡 (3)	機器の構造 (1)		
	4	内視鏡 (4)	機器の構造 (2)		
	5	内視鏡 (5)	機器の取り扱い (1)		
	6	内視鏡 (6)	機器の取り扱い (2)		
	7	内視鏡 (7)	機器の取り扱い (3)		
	8	内視鏡 (8)	機器の取り扱い (4)		
	9	内視鏡 (9)	機器の取り扱い (5)		
	10	内視鏡 (10)	機器の取り扱い (6)		
	11	心臓カテーテル (1)	解剖学、生理学 立体的に冠動脈をとらえ CAG を読める		
	12	心臓カテーテル (2)	治療デバイス アブレーション治療による電気刺激 汎用される薬剤		
	13	心臓カテーテル (3)	輸液ポンプを用いた薬剤投与と静脈路確保と抜針		
	14	血液透析	シャントの管理、穿刺 自己血管、人工血管、動脈表在化		
15	血液透析	外シャントの取り扱い W ルーメンカテーテル、カフ付きカテーテル			



授業科目	生体機能代行装置学		担当教員	本吉 竜浩	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	24 回	時間数	48 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50			
	レポート	50			
	小テスト	0			
提出物	0				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		



授業科目	生体機能代行装置学実習 A		担当教員	本吉 竜浩	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	生体機能代行装置学実習 で実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座 「生体機能代行装置学 体外循環装置」 第2版 (医歯薬出版) 臨床工学講座 「生体機能代行装置学 呼吸療法装置」 第2版 (医歯薬出版) 最新臨床工学講座 「生体機能代行装置学 血液浄化療法装置」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	実技試験 レポート提出 以上を総合して評価する。		
	レポート	50			
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	学内実習・体外循環(1)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(1)		
	2	学内実習・体外循環(2)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(2)		
	3	学内実習・体外循環(3)	基本操作(1)シュミレータ PIT 使用		
	4	学内実習・体外循環(4)	基本操作(2)シュミレータ PIT 使用		
	5	学内実習・体外循環(5)	基本操作(3)シュミレータ PIT 使用		
	6	学内実習・体外循環(6)	基本操作(4)シュミレータ PIT 使用		
	7	学内実習・体外循環(7)	トラブルシューティング		
	8	学内実習・体外循環(8)	人工心肺装置の保守管理		
	9	学内実習・血液透析(1)	血液透析の仕組み、保守管理、水処理装置、在宅透析		
	10	学内実習・血液透析(2)	透析のプライミング(1)		
	11	学内実習・血液透析(3)	透析のプライミング(2)		
	12	学内実習・血液透析(4)	透析のプライミング(3)		
	13	学内実習・血液透析(5)	透析の開始操作(1)バスキュラーアクセスの管理内シャント、外シャント		
	14	学内実習・血液透析(6)	透析の開始操作(2)体重測定、血圧測定、他治療管理に必要な患者情報収集		
	15	学内実習・血液透析(7)	透析の返血(1)薬剤の投与		
	16	学内実習・血液透析(8)	透析の返血(2)返血、止血、退室までの安全確保		
17	学内実習・血液透析(9)	総合技術			

18	学内実習・血液透析(10)	総合技術
19	学内実習・血液浄化全般(1)	アフエーシス装置の操作、点検(1)
20	学内実習・血液浄化全般(2)	アフエーシス装置の操作、点検(2)
21	学内実習・人工呼吸器(1)	疾患別の呼吸管理(1)
22	学内実習・人工呼吸器(2)	疾患別の呼吸管理(2)
23	学内実習・人工呼吸器(3)	気管吸引と気道管理(1)
24	学内実習・人工呼吸器(4)	気管吸引と気道管理(2)
25	学内実習・人工呼吸器(5)	人工呼吸器の保守管理、重症化した場合のV V ECMO 管理
26	学内実習・人工呼吸器(6)	人工呼吸器開始、維持、離脱、低流・高流量酸素療法、在宅酸素療法
27	学内実習・ペースメーカー(1)	ペースメーカーチェック(1)
28	学内実習・ペースメーカー(2)	ペースメーカーチェック(2)
29	患者管理・対応(1)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(1)
30	患者管理・対応(2)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(2)



授業科目	生体機能代行装置学実習 B		担当教員		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	生体機能代行装置学実習 で実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座 「生体機能代行装置学 体外循環装置」 第2版 (医歯薬出版) 臨床工学講座 「生体機能代行装置学 呼吸療法装置」 第2版 (医歯薬出版) 最新臨床工学講座 「生体機能代行装置学 血液浄化療法装置」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	実技試験 レポート提出 以上を総合して評価する。		
	レポート	50			
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	学内実習・体外循環(1)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(1)		
	2	学内実習・体外循環(2)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(2)		
	3	学内実習・体外循環(3)	基本操作(1)シュミレータ PIT 使用		
	4	学内実習・体外循環(4)	基本操作(2)シュミレータ PIT 使用		
	5	学内実習・体外循環(5)	基本操作(3)シュミレータ PIT 使用		
	6	学内実習・体外循環(6)	基本操作(4)シュミレータ PIT 使用		
	7	学内実習・体外循環(7)	トラブルシューティング		
	8	学内実習・体外循環(8)	人工心肺装置の保守管理		
	9	学内実習・血液透析(1)	血液透析の仕組み、保守管理、水処理装置、在宅透析		
	10	学内実習・血液透析(2)	透析のプライミング(1)		
	11	学内実習・血液透析(3)	透析のプライミング(2)		
	12	学内実習・血液透析(4)	透析のプライミング(3)		
	13	学内実習・血液透析(5)	透析の開始操作(1)バスキュラーアクセスの管理内シャント、外シャント		
	14	学内実習・血液透析(6)	透析の開始操作(2)体重測定、血圧測定、他治療管理に必要な患者情報収集		
	15	学内実習・血液透析(7)	透析の返血(1)薬剤の投与		
	16	学内実習・血液透析(8)	透析の返血(2)返血、止血、退室までの安全確保		
17	学内実習・血液透析(9)	総合技術			

18	学内実習・血液透析(10)	総合技術
19	学内実習・血液浄化全般(1)	アフェレーシス装置の操作、点検(1)
20	学内実習・血液浄化全般(2)	アフェレーシス装置の操作、点検(2)
21	学内実習・人工呼吸器(1)	疾患別の呼吸管理(1)
22	学内実習・人工呼吸器(2)	疾患別の呼吸管理(2)
23	学内実習・人工呼吸器(3)	気管吸引と気道管理(1)
24	学内実習・人工呼吸器(4)	気管吸引と気道管理(2)
25	学内実習・人工呼吸器(5)	人工呼吸器の保守管理、重症化した場合のV V ECMO管理
26	学内実習・人工呼吸器(6)	人工呼吸器開始、維持、離脱、低流・高流量酸素療法、在宅酸素療法
27	学内実習・ペースメーカー(1)	ペースメーカーチェック(1)
28	学内実習・ペースメーカー(2)	ペースメーカーチェック(2)
29	患者管理・対応(1)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(1)
30	患者管理・対応(2)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(2)



授業科目	生体機能代行装置学実習 C		担当教員		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	生体機能代行装置学実習 で実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座 「生体機能代行装置学 体外循環装置」 第2版 (医歯薬出版) 臨床工学講座 「生体機能代行装置学 呼吸療法装置」 第2版 (医歯薬出版) 最新臨床工学講座 「生体機能代行装置学 血液浄化療法装置」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	実技試験 レポート提出 以上を総合して評価する。		
	レポート	50			
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	学内実習・体外循環(1)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(1)		
	2	学内実習・体外循環(2)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(2)		
	3	学内実習・体外循環(3)	基本操作(1)シュミレータ PIT 使用		
	4	学内実習・体外循環(4)	基本操作(2)シュミレータ PIT 使用		
	5	学内実習・体外循環(5)	基本操作(3)シュミレータ PIT 使用		
	6	学内実習・体外循環(6)	基本操作(4)シュミレータ PIT 使用		
	7	学内実習・体外循環(7)	トラブルシューティング		
	8	学内実習・体外循環(8)	人工心肺装置の保守管理		
	9	学内実習・血液透析(1)	血液透析の仕組み、保守管理、水処理装置、在宅透析		
	10	学内実習・血液透析(2)	透析のプライミング(1)		
	11	学内実習・血液透析(3)	透析のプライミング(2)		
	12	学内実習・血液透析(4)	透析のプライミング(3)		
	13	学内実習・血液透析(5)	透析の開始操作(1)バスキュラーアクセスの管理内シャント、外シャント		
	14	学内実習・血液透析(6)	透析の開始操作(2)体重測定、血圧測定、他治療管理に必要な患者情報収集		
	15	学内実習・血液透析(7)	透析の返血(1)薬剤の投与		
	16	学内実習・血液透析(8)	透析の返血(2)返血、止血、退室までの安全確保		
17	学内実習・血液透析(9)	総合技術			

18	学内実習・血液透析(10)	総合技術
19	学内実習・血液浄化全般(1)	アフエーシス装置の操作、点検(1)
20	学内実習・血液浄化全般(2)	アフエーシス装置の操作、点検(2)
21	学内実習・人工呼吸器(1)	疾患別の呼吸管理(1)
22	学内実習・人工呼吸器(2)	疾患別の呼吸管理(2)
23	学内実習・人工呼吸器(3)	気管吸引と気道管理(1)
24	学内実習・人工呼吸器(4)	気管吸引と気道管理(2)
25	学内実習・人工呼吸器(5)	人工呼吸器の保守管理、重症化した場合のV V ECMO管理
26	学内実習・人工呼吸器(6)	人工呼吸器開始、維持、離脱、低流・高流量酸素療法、在宅酸素療法
27	学内実習・ペースメーカー(1)	ペースメーカーチェック(1)
28	学内実習・ペースメーカー(2)	ペースメーカーチェック(2)
29	患者管理・対応(1)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(1)
30	患者管理・対応(2)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(2)



授業科目	生体機能代行装置学実習 D		担当教員		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	生体機能代行装置学実習 で実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座 「生体機能代行装置学 体外循環装置」 第2版 (医歯薬出版) 臨床工学講座 「生体機能代行装置学 呼吸療法装置」 第2版 (医歯薬出版) 最新臨床工学講座 「生体機能代行装置学 血液浄化療法装置」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	実技試験 レポート提出 以上を総合して評価する。		
	レポート	50			
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	学内実習・体外循環(1)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(1)		
	2	学内実習・体外循環(2)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(2)		
	3	学内実習・体外循環(3)	基本操作(1)シュミレータ PIT 使用		
	4	学内実習・体外循環(4)	基本操作(2)シュミレータ PIT 使用		
	5	学内実習・体外循環(5)	基本操作(3)シュミレータ PIT 使用		
	6	学内実習・体外循環(6)	基本操作(4)シュミレータ PIT 使用		
	7	学内実習・体外循環(7)	トラブルシューティング		
	8	学内実習・体外循環(8)	人工心肺装置の保守管理		
	9	学内実習・血液透析(1)	血液透析の仕組み、保守管理、水処理装置、在宅透析		
	10	学内実習・血液透析(2)	透析のプライミング(1)		
	11	学内実習・血液透析(3)	透析のプライミング(2)		
	12	学内実習・血液透析(4)	透析のプライミング(3)		
	13	学内実習・血液透析(5)	透析の開始操作(1)バスキュラーアクセスの管理内シャント、外シャント		
	14	学内実習・血液透析(6)	透析の開始操作(2)体重測定、血圧測定、他治療管理に必要な患者情報収集		
	15	学内実習・血液透析(7)	透析の返血(1)薬剤の投与		
	16	学内実習・血液透析(8)	透析の返血(2)返血、止血、退室までの安全確保		
17	学内実習・血液透析(9)	総合技術			

18	学内実習・血液透析(10)	総合技術
19	学内実習・血液浄化全般(1)	アフエーシス装置の操作、点検(1)
20	学内実習・血液浄化全般(2)	アフエーシス装置の操作、点検(2)
21	学内実習・人工呼吸器(1)	疾患別の呼吸管理(1)
22	学内実習・人工呼吸器(2)	疾患別の呼吸管理(2)
23	学内実習・人工呼吸器(3)	気管吸引と気道管理(1)
24	学内実習・人工呼吸器(4)	気管吸引と気道管理(2)
25	学内実習・人工呼吸器(5)	人工呼吸器の保守管理、重症化した場合のV V ECMO 管理
26	学内実習・人工呼吸器(6)	人工呼吸器開始、維持、離脱、低流・高流量酸素療法、在宅酸素療法
27	学内実習・ペースメーカー(1)	ペースメーカーチェック(1)
28	学内実習・ペースメーカー(2)	ペースメーカーチェック(2)
29	患者管理・対応(1)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(1)
30	患者管理・対応(2)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(2)



授業科目	生体機能代行装置学実習 E		担当教員		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	生体機能代行装置学実習 で実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置を実際に操作して、システムを学ぶ。				
到達目標	生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を習得し、正しく操作できる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座 「生体機能代行装置学 体外循環装置」 第2版 (医歯薬出版) 臨床工学講座 「生体機能代行装置学 呼吸療法装置」 第2版 (医歯薬出版) 最新臨床工学講座 「生体機能代行装置学 血液浄化療法装置」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	実技試験 レポート提出 以上を総合して評価する。		
	レポート	50			
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	学内実習・体外循環(1)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(1)		
	2	学内実習・体外循環(2)	回路組み、プライミング、オクリュージョン調整(2)		
	3	学内実習・体外循環(3)	基本操作(1)シュミレータ PIT 使用		
	4	学内実習・体外循環(4)	基本操作(2)シュミレータ PIT 使用		
	5	学内実習・体外循環(5)	基本操作(3)シュミレータ PIT 使用		
	6	学内実習・体外循環(6)	基本操作(4)シュミレータ PIT 使用		
	7	学内実習・体外循環(7)	トラブルシューティング		
	8	学内実習・体外循環(8)	人工心肺装置の保守管理		
	9	学内実習・血液透析(1)	血液透析の仕組み、保守管理、水処理装置、在宅透析		
	10	学内実習・血液透析(2)	透析のプライミング(1)		
	11	学内実習・血液透析(3)	透析のプライミング(2)		
	12	学内実習・血液透析(4)	透析のプライミング(3)		
	13	学内実習・血液透析(5)	透析の開始操作(1)バスキュラーアクセスの管理内シャント、外シャント		
	14	学内実習・血液透析(6)	透析の開始操作(2)体重測定、血圧測定、他治療管理に必要な患者情報収集		
	15	学内実習・血液透析(7)	透析の返血(1)薬剤の投与		
	16	学内実習・血液透析(8)	透析の返血(2)返血、止血、退室までの安全確保		
17	学内実習・血液透析(9)	総合技術			

18	学内実習・血液透析(10)	総合技術
19	学内実習・血液浄化全般(1)	アフエレーシス装置の操作、点検(1)
20	学内実習・血液浄化全般(2)	アフエレーシス装置の操作、点検(2)
21	学内実習・人工呼吸器(1)	疾患別の呼吸管理(1)
22	学内実習・人工呼吸器(2)	疾患別の呼吸管理(2)
23	学内実習・人工呼吸器(3)	気管吸引と気道管理(1)
24	学内実習・人工呼吸器(4)	気管吸引と気道管理(2)
25	学内実習・人工呼吸器(5)	人工呼吸器の保守管理、重症化した場合のV V ECMO 管理
26	学内実習・人工呼吸器(6)	人工呼吸器開始、維持、離脱、低流・高流量酸素療法、在宅酸素療法
27	学内実習・ペースメーカー(1)	ペースメーカーチェック(1)
28	学内実習・ペースメーカー(2)	ペースメーカーチェック(2)
29	患者管理・対応(1)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(1)
30	患者管理・対応(2)	生命維持管理装置の実態、関連する医用機器(2)



授業科目	医用機器安全管理学		担当教員	工藤 元嗣	
対象年次・学期			必修・選択区分	単位数	
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	患者と操作者の安全を守るための医療施設における電気的安全と医療ガス、他 ME 機器の安全性・安全管理について学ぶ。				
到達目標	医療機器を用いた検査治療において危険を察知し適正な管理を実施できるようになる。				
テキスト・参考図書等	"臨床工学講座 「医用機器安全管理学」 第2版 (医歯薬出版) 手術室における臨床工学技士の業務マニュアル(北海道臨床工学技士会)"				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	評価内容		試験で評価する。		
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	手術室における安全管理(1)	麻酔器の管理(1)		
	2	手術室における安全管理(2)	麻酔器の管理(2)		
	3	手術室における安全管理(3)	内視鏡装置の管理(1)		
	4	手術室における安全管理(4)	内視鏡装置の管理(2)		
	5	手術室における安全管理(5)	手術室におけるモニタ機器の管理		
	6	手術室における安全管理(6)	手術室におけるその他の安全管理(1)		
	7	手術室における安全管理(7)	手術室におけるその他の安全管理(2)		
	8	安全管理学(1)	人体の安全限界		
	9	安全管理学(2)	医用室の安全対策(1)		
	10	安全管理学(3)	医用室の安全対策(2)		
	11	安全管理学(4)	医用ガス		
	12	安全管理学(5)	システム安全		
	13	安全管理学(6)	医用機器安全管理責任者		
	14	総合まとめと確認	問題演習と解説(1)		
15	総合まとめと確認	問題演習と解説(2)			



授業科目	医用機器安全管理学実習		担当教員	小山 有基	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	臨床工学技士として安全管理の考え方を理解することを目的とする。				
到達目標	臨床工学技士に求められる安全管理の在り方を調査・研究できるようになる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座 「医用機器安全管理学」 第2版（医歯薬出版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	評価内容		" 研究データ 発表技術 抄録・スライド提出 以上を総合して評価する"		
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	研究テーマ策定	実習の流れ及び研究内容の選択		
	2	安全管理研究発表(1)	要旨作成(1)		
	3	安全管理研究発表(2)	要旨作成(2)		
	4	安全管理研究発表(3)	要旨作成(3)		
	5	安全管理研究発表(4)	ポスター作成(1)		
	6	安全管理研究発表(5)	ポスター作成(2)		
	7	安全管理研究発表(6)	ポスター作成(3)		
	8	安全管理研究発表(7)	ポスター作成(4)		
	9	安全管理研究発表(8)	ポスター作成(5)		
	10	安全管理研究発表(9)	ポスター作成(6)		
	11	安全管理研究発表(10)	ポスター作成(7)		
	12	安全管理研究発表(11)	ポスター作成(8)		
	13	安全管理研究発表(12)	研究発表(1)		
	14	安全管理研究発表(13)	研究発表(2)		
15	安全管理研究発表(14)	研究発表(3)			



授業科目	感染症学	担当教員	木村 主幸		
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	医療現場において感染症に対する対策は必要不可欠である。ここでは、医療現場における感染のリスクと感染対策について広く学ぶ。				
到達目標	臨床工学技士が関わる業務において、感染対策について理解できるようになる。				
テキスト・参考図書等	プリント配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験により評価する		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	感染(1)	透析室における感染対策(1)		
	2	感染(2)	透析室における感染対策(2)		
	3	感染(3)	手術室における感染対策(1)		
	4	感染(4)	手術室における感染対策(2)		
	5	感染(5)	内視鏡室における感染対策(1)		
	6	感染(6)	内視鏡室における感染対策(2)		
	7	感染(7)	その他の領域での感染対策(1)		
	8	感染(8)	その他の領域での感染対策(2)		



授業科目	臨床実習	担当教員	本吉 竜浩		
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数		時間数	210 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験				
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	血液浄化	血液浄化業務関連する、技術、知識、保守点検など		
	2	手術室・ICU	手術室・ICU における技術・知識・保守管理など		
	3	医用機器管理	病院施設の機器管理業務における技術・知識・保守管理		



授業科目	システム工学		担当教員	西村 生哉	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	複数の要素が相互に関わり合うシステムを理解し、最適に動作させるための基本的考え方を学習する。また、Excel VBAを通して、プログラミングやアルゴリズムに触れる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラプラス変換を利用して微分方程式を解くことができる。</li> <li>・VBAの記述法を学習により、簡単なプログラムを作成できる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	臨床工学講座 「医用システム・制御工学」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	定期試験 VBA作成 以上を総合して評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	50				
履修上の留意事項	教室で講義を中心に、後半はコンピュータ室で実習も取り入れながら学習を展開。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	システムとは	システムとは		
	2	制御とは	制御とは		
	3	制御における関数の扱い	制御における関数の扱い		
	4	制御系の記述と伝達関数	制御系の記述と伝達関数		
	5	制御系の応答	制御系の応答		
	6	制御系の応答	制御系の応答		
	7	問題演習	問題演習		
	8	医療における制御	医療における制御		
	9	VBAによるプログラミング	マクロとVBA、MsgBox、InputBox		
	10	VBAによるプログラミング	変数		
	11	VBAによるプログラミング	For、Do Loop		
	12	VBAによるプログラミング	If		
	13	VBAによるプログラミング	cells プロパティ		
	14	VBAによるプログラミング	ユーザーフォーム		
15	VBAによるプログラミング	ユーザーフォーム			



授業科目	医用機器学概論	担当教員	成田 孝行		
対象年次・学期	3年・通期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	臨床実習および国家試験に準ずる臨床工学技士に必要な知識の総復習をする。				
到達目標	機器の原理や管理方法を学び、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	プリントを配付、国家試験解説集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験により評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	テキストおよびプリントを用いた講義。遅刻はしないこと。授業中の私語、携帯、居眠り厳禁。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	血液透析療法(1)	透析準備		
	2	血液透析療法(2)	透析準備		
	3	血液透析療法(3)	透析中の管理		
	4	血液透析療法(4)	透析中の管理		
	5	血液透析療法(5)	周辺装置の管理		
	6	医用機器と臨床工学技士の関わり(1)	医療施設における臨床工学技士業務の実際		
	7	医用機器と臨床工学技士の関わり(2)	医療施設における臨床工学技士業務の実際		
	8	医用機器と臨床工学技士の関わり(3)	医療施設における臨床工学技士業務の実際		
	9	医用機器と臨床工学技士の関わり(4)	医療施設における臨床工学技士業務の実際		
	10	医用治療器(1)	電気メス、除細動器、ペースメーカー		
	11	医用治療器(2)	内視鏡視下手術、レーザーメス、高周波治療器		
	12	医用治療器(3)	その他の治療器		
	13	生体計測装置(1)	心電計、筋電計、脳波計		
	14	生体計測装置(2)	パルスオキシメータ、カプノメータ、呼吸計測		
15	生体計測装置(3)	X線CT、MRI、PET、SPECT			



授業科目	医用治療機器学		担当教員	齋藤 大貴	
対象年次・学期	3年・通期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	医療機器を用いた治療分野の中で急激に進歩・普及しているカテーテル分野、手術室分野において臨床工学技士に求められる知識や技術を習得する。				
到達目標	カテーテル分野において即戦力となりえる知識と冠動脈造影の読影ができる。内視鏡手術に関連する治療機器の知識とスコープから見える画像や視野を理解する。				
テキスト・参考図書等	確実に身につく PCI の基本とコツ (羊土社) 確実に身につく心臓カテーテル検査の基本とコツ (羊土社) 臨床工学プラクティカル・フルコース (メジカルビュー社) カテーテルスタッフのための PCI 必須知識 (メジカルビュー社) プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	100	試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	スライドを用いた講義形式。実際の機器に触れながらのグループワーク。遅刻はしないこと。授業中の私語、携帯、居眠り厳禁。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	心臓カテーテル検査室の治療器	心臓カテーテルに必要な解剖生理		
	2	心臓カテーテル検査室の治療器	圧測定		
	3	心臓カテーテル検査室の治療器	心拍出量測定		
	4	心臓カテーテル検査室の治療器	冠動脈造影		
	5	心臓カテーテル検査室の治療器	その他の造影		
	6	心臓カテーテル検査室の治療器	PCI(1)		
	7	心臓カテーテル検査室の治療器	PCI(2)		
	8	心臓カテーテル検査室の治療器	カテーテルアブレーション(1)		
	9	心臓カテーテル検査室の治療器	カテーテルアブレーション(2)		
	10	心臓カテーテル検査室の治療器	臨床工学技士法に準じた心臓カテーテル業務の実際		
	11	手術室の治療器と内視鏡手術(1)	鏡視下手術の種類及び使用機材、スコープの視野(1)		
	12	手術室の治療器と内視鏡手術(2)	鏡視下手術の種類及び使用機材、スコープの視野(2)		
	13	手術室の治療器と内視鏡手術(3)	鏡視下手術の適応疾患と使用する治療器(1)		
	14	手術室の治療器と内視鏡手術(4)	鏡視下手術の適応疾患と使用する治療器(2)		
15	手術室の治療器と内視鏡手術(5)	鏡視下手術の適応疾患と使用する治療器(3)			



授業科目	公衆衛生学	担当教員	今谷 正則		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	地域社会における組織的活動による社会環境の改善によって、健康の保持・増進を図ることが公衆衛生活動の目的であり、その理論的、技術的基盤が公衆衛生である。したがって、地域における組織的活動の一翼を担う医療従事者として、公衆衛生学の理論と技術の基本を学ぶことが目的である。				
到達目標	疾病予防や健康増進は地域社会における組織的活動による社会環境の改善が必要であること、公衆衛生活動における行政や法律の役割を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	臨床工学技士標準テキスト第3版増補版（金原出版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験により評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	テキストおよびプリントを用いた講義。講義内容を多角的な視点で理解できるように国試の過去問も利用しながら解説する。臨床医学とは異なる考え方や用語が多いので、理解しづらい点は積極的に質問すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	公衆衛生学の目的と公衆衛生活動の意義	公衆衛生学の目的、公衆衛生活動の定義、公衆行政の目的と組織、保健所		
	2	健康と疾病	世界保健機関（WHO）の健康の定義、日本国憲法第25条、健康の構成要因、疫学と保健衛生統計		
	3	わが国の公衆衛生活動の現状（1）	衛生統計		
	4	わが国の公衆衛生活動の現状（2）	感染症対策		
	5	わが国の公衆衛生活動の現状（3）	医療従事者としての課題、環境衛生学		
	6	わが国の公衆衛生活動の現状（4）	学校保健、産業保健		
	7	わが国の公衆衛生活動の現状（5）	環境保健（保全）		
8	わが国の公衆衛生活動の現状（6）	社会保障・社会福祉と公衆衛生の関係			

